０３／０３／０９　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：救いの確信
聖書箇所：ペテロの手紙第１　１章６－１２節

神はイエス・キリストを信じる者に祝福を与えてくださっています。永遠の救いです。「いのちの書に私の名前が記されている」ことは私たちの希望です。永遠のいのち、完全な義、神を誉め称えながら永遠を過ごすこと、これらは大いなる祝福です。そして、これは将来だけでなく、今この地上においても私たちに与えられていることです。

☆ どのような祝福でしょう？
神の祝福をいただいて今日生きて行くその祝福とは、どんな時にも喜び、平安、感謝をもっていること、兄弟姉妹との愛による交わり、私たちがキリストに似た者へと変えられて行くこと、私たちを通して唯一真の神が証されてゆくこと、です。神の約束に期待して生きて行こうとするのです。
　しかし、このような祝福の中に生きていないクリスチャンが多いことも事実です。クリスチャンはこの大変な世の中にあっても、希望を持って、神を信頼して生きて行けるのです。なぜなら、そこに神が働いてご自身のわざを成されるからです。どんな絶望の中にも泉のように湧き出る希望が、私たちには与えられているのです。神の全能の力は私たちの歩みとともに働かれます。私たちはみことばを聞くだけでなく実践して行くことです。神の助けをいただいて…。それは実践してゆこうとする意志と選択なのです。もし私たちがそれを望まないなら神は働かれません。これが信仰生活のカギです。ヤコブ 1：22 に「また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってはいけません。」とある通りです。

☆クリスチャンはいつも希望をもって歩んで行くことができる。　　６，７節
クリスチャンの喜びとはどのようなものでしょう？　6 節の初めの「大いに喜んで」とは、非常に喜ぶ、歓呼する、小躍りして喜ぶ、という意味ですが、ギリシャ語ではこれは日常生活で使われることはなく、新約聖書のみに使われたことばです。深い霊的な喜び、神によってなされたことを喜ぶ、という意味で、神が与えてくださった喜び、霊的な喜びから引き起こされるものだから、「救いの喜び」のことです。1 ペテロ 4：13「むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」とペテロは言います。また、マリヤが自分の身に起こった一連の出来事を経て、主を称えてこのように賛美しています。ルカ 1：46、47「わがたましいは主をあがめ、わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。」と。そしてまた、パウロがシラスとともに捕えられて牢に入れられたとき、パウロの語った福音によって救いを受けた看守は家族とともに「全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。」（使徒 16：34）と記されています。
　これらは神のみわざが成されたことの喜びです。人が救われたとき、私たちは喜びにあふれます。この喜びは神だけがくださるものです。特別のものです。神に対して溢れ出てくる喜びです。私たちにはこの喜びをもって日々歩んで行けるという約束が与えられているのです。

☆神の喜びを脅かすもの
　試練　＝　6 節にある「試練」とは、試み、神が許可した誘惑という意味があります。またこれは、外部から不当な扱いを受けること、クリスチャンでない人から受ける様々な苦難、クリスチャンでない人の態度などを指しています。クリスチャン自身の罪が招いたゆえの試練ではありません。
　ペテロはこの「試練」に三つのことばを付けて説明します。「いまは」＝この試練は必ず訪れるものだと言います。「しばらくの間」＝しかし、この試練は一時的である、永遠には続かないと言い、「さまざまな」＝これは「いろいろな」と言うことですが、旧約聖書の中でモーセが祭司であるアロンのために装束を作らせたときに、このことばが使われています。祭司が神に仕えるときの装束、エポデです。出エジプト 28：２，６にあります。いろいろな色の撚り糸で織った亜麻布でエポデを作るのです。いろいろな種類の試練が来ると言うのです。
　その試練は悲しみをもたらすと言います。「悲しまなければならない」とありますが、「悲しみ」とは悲しみ、苦しみによる精神的な結果のことです。私たちが信仰をもって歩むとき、世との摩擦があります。また、周りの人たちに伝道しても、その福音が届かない、聞いてもらえない、反発されるとき、これらの結果、私たちの心にもたらされる悲しみ、苦しみのことです。しかし、私たちがこれらの試練

を取り除いてください、と神に願うことは間違っているのです。神は試練をなくす、とは言われません。私たちは、試練そのものより、それがもたらす悲しみに勝利できるように願うことです。そして、神は勝利できると言われます。試練の中にあっても喜び、神をほめたたえて行くこと、そのようにさせてくださるのが神です。神は私を助けてくださるのです。問題から来る苦痛は神によって取り除かれます。私たちにはイエス・キリストの模範があります。イエスさまは心を開かないイスラエルの人々に涙されましたが、すべてに勝る喜びがありました。

☆どうすれば、いつもこのような喜びをもって行けるのでしょう？

１．　神から与えられた救いをしっかり覚えること

６節の初めにある「そういうわけで」とは、５節までに語られたすばらしい救いのことを受けています。救われた者はいつまでもこの地上にはいない、永遠の祝福に入れられるという希望があるのだと続いて教えて行くのですが、私たちはどんな時にも「救い」のすばらしさを忘れないことです。神が私の上に成してくださった救いを覚えることです。どのような試練にも勝利できる力を神は約束してくださっています。悲しみ、苦しみに勝利してゆく力が与えられているのです。

２．　神の知恵を覚えること

６節の終わりに「悲しまなければならないのですが」とあります。この「なければならない」は「もし必要ならば」という意味で、「苦痛は必要だから神が私に与えている」、「私のために」と神の目的を教えています。目的を達成するために、というのです。

私たちに試練が与えられる目的を見てゆきます。

１）　信仰をきよめるため

７節にある「信仰の試練」は６節の「試練」とは違います。これには定冠詞が付いており、純粋さ、という意味です。あなたの信仰の純粋さ、証明された品質、火を通して精錬されて行く純粋さです。試練があなたの信仰をますます純粋なものにしてゆく機会であるというのです。この純粋な信仰とは、教理的に正しい判断というのではなく、神のみことばに対する態度を言っています。金は精錬されてもやがて朽ちて行くけれど、より忠実に神に従ってゆこうとするあなたの信仰は永遠の祝福に至るのだと言うのです。「至るものである」とは、神によるテストの結果、報いのことです。ヤコブ１：12 に「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」とある「いのちの冠」を受けるのです。ここに三つの形容詞があります。称賛とは、さばき主からいただく承認、是認です。「よくやった！」です。1コリント４：５に「ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをしてはいけません。主はやみの中に隠れた事も明るみに出し、心の中のはかりごとも明らかにされます。そのとき、神から各人に対する称賛が届くのです。」とある通りです。光栄は神の栄光です。光栄も栄誉も神のご性質です。栄誉とは、特別な働きをした兵士への勲章という意味で、行いに対する正しい評価、褒美です。しかし、これらのすべてを受けるにふさわしい方は神です、と私たちは言います。ペテロの私たちへの勧めがあります。2ペテロ３：14「そういうわけで、愛する人たち。このようなことを待ち望んでいるあなたがたですから、しみも傷もない者として、平安をもって御前に出られるように、励みなさい。」と。

２）　信仰の有無を明らかにするため

その信仰が本物かどうか明らかにするのです。マタイの福音書１３章には「種まき」の例えがあります。あなたのうちにはみことばがしっかり根付いているでしょうか？ペテロは言います。皆が本物のクリスチャンであるとは限らないと。聖書の中にはそのような人への警告が溢れています。試練が来るとき、その人の信仰が明らかになります。信仰が本物なら神から褒美が、もし偽物なら無価値だとしてさばきに至るのです。

「イエス・キリストの現われのとき」とは、キリストの再臨です。キリストが帰って来られる日は近いというなら、私たちははっきりさせるべきです。「救いを得ているか？」「神に従って歩んでいるか？」と。自分自身の歩みの精算のときを覚えるのです。

⇒　「信仰のある者は救われたことを心から喜んで歩んで行ける」、これがペテロが私たちに教えることです。神を信頼して歩んで行く、今は分からなくても、完全な神の計画があるのだと信じ、神のみこころを知り、それを行なってゆくことです。そのとき、問題が私たちにもたらす苦しみ、悲しみに勝る喜びをもって歩んで行けるのです。